

リンク ( <https://kentarotamiya.github.io/yakiniku.github.io/index.html> )

## 1. 目的

本レポートの目的は HTML、CSS を用いた Web ページ作成技術の獲得である。

## 2. 課題

本レポートでは、Photoshop による素材画像の編集、Illustrator によるロゴと地図の作成、Dreamweaver による Web ページの作成を行なった。具体的には、素材画像編集では肉や炭の画像の編集、背景の作成を行なった。ロゴと地図作成では、テキスト・図形の追加、テキストのデザイン化を行なった。Web ページの作成では、階層的なページの作成、css の設定、ナビゲーション（メニュー）の作成等を行なった。

## 3. 手順

制作した素材画像、ロゴ・地図、Web ページのそれぞれに章立てて説明をする。

### 3.1 素材画像

- ・素材である肉の写真を取り込み、まず皿に飛んだタレ等をスポット修復ブラシを用いて無くし、清潔感を出す様にした（図 1,2）。その際、特に汚れが大きい箇所は、皿を基準にした修復ブラシである程度白くしてから、スポット修復ブラシを用いた。



図 1 元画像



図 2 修復ブラシ使用后

- ・明るさを 86、コントラストを 17 にし、より美味しそうに見える様にした（図 3）。



図 3 明るさ、コントラスト調整後

- ・次に、赤のトーンカーブを調整し、食品である為、温かみを表現した（図 4,5）。

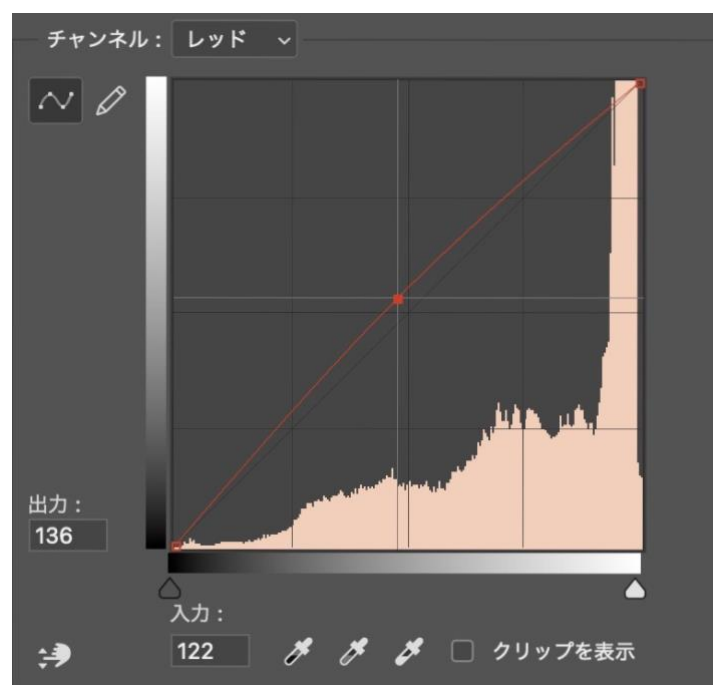


図 4 使用した赤のトーンカーブ（肉）



図5 トーンカーブ修正後

- ・続いて切り抜きツールで上部の余分な部分をカットした。
- ・最後に、選択ツールで皿部分を選択し、選択部分を反転後、単色にした。こうすることで、余分なテーブル部分を統一された背景にする事が出来た（図6）。



図6 背景作成後

・同じ工程を他の肉についても行なった。以下に修正前と修正後を示す(図7～18)。



図7 修正前（豚ホルモン）



図8 修正後（豚ホルモン）



図9 修正前（豚タン）

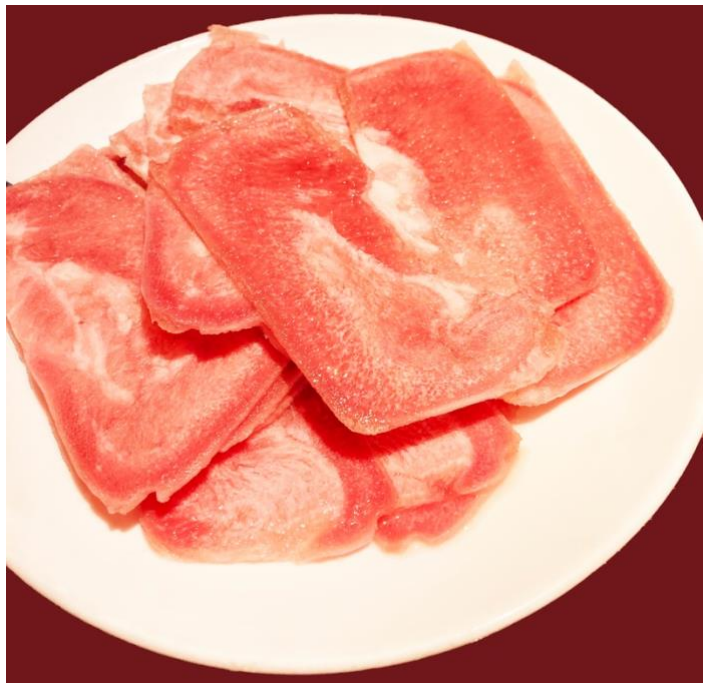


図10 修正後（豚タン）





図 11 修正前（ハラミ）



図 12 修正後（ハラミ）



図 13 修正前（カルビ）



図 14 修正後（カルビ）



図 15 修正前（鶏もも）



図 16 修正後（鶏もも）



図 17 修正前（鶏ヤゲン）



図 18 修正後（鶏ヤゲン）



- ・また炭の写真についても同様の処理を行なったが、トーンカーブに図 19 のものを用いる事で、炭の赤い部分をより強調させた（図 19,20,21）。

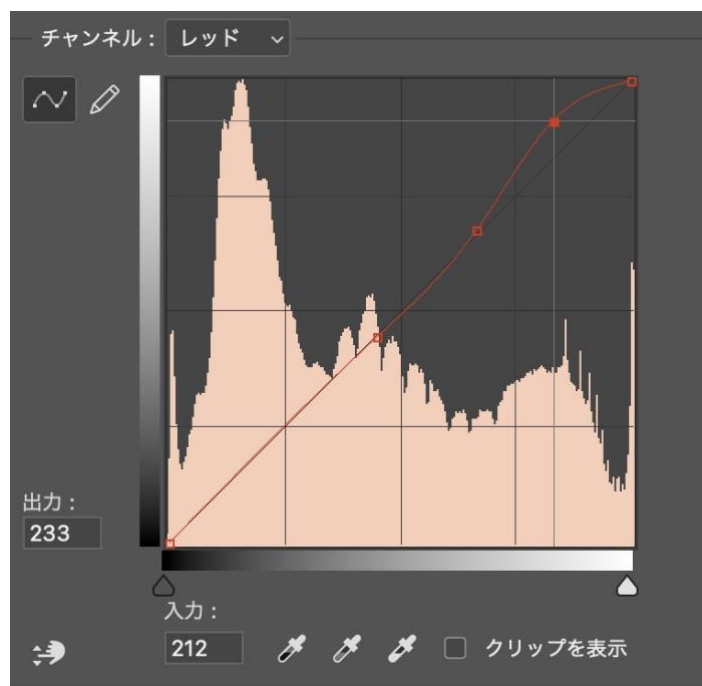


図 19 使用した赤のトーンカーブ（炭）



図 20 修正前（炭）



図 21 修正後（炭）

### 3.2 ロゴ・地図作成

- ・ロゴは以下のものを作成した（図 22）。「牛工大」全体を力強いフォントにする事と、「工」の部分で牛を表現する事を工夫した。

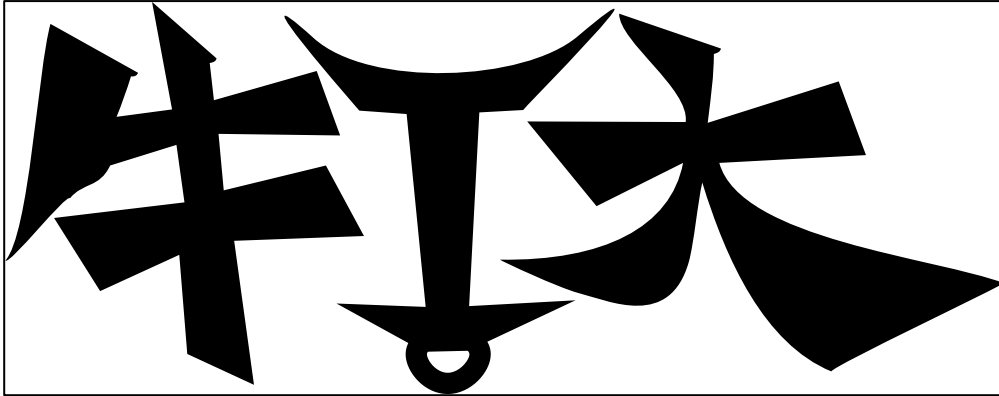


図 22 ロゴ

- ・地図は以下のものを作成した（図 23）。線路の作成とロゴを地図に入れる部分を工夫した。

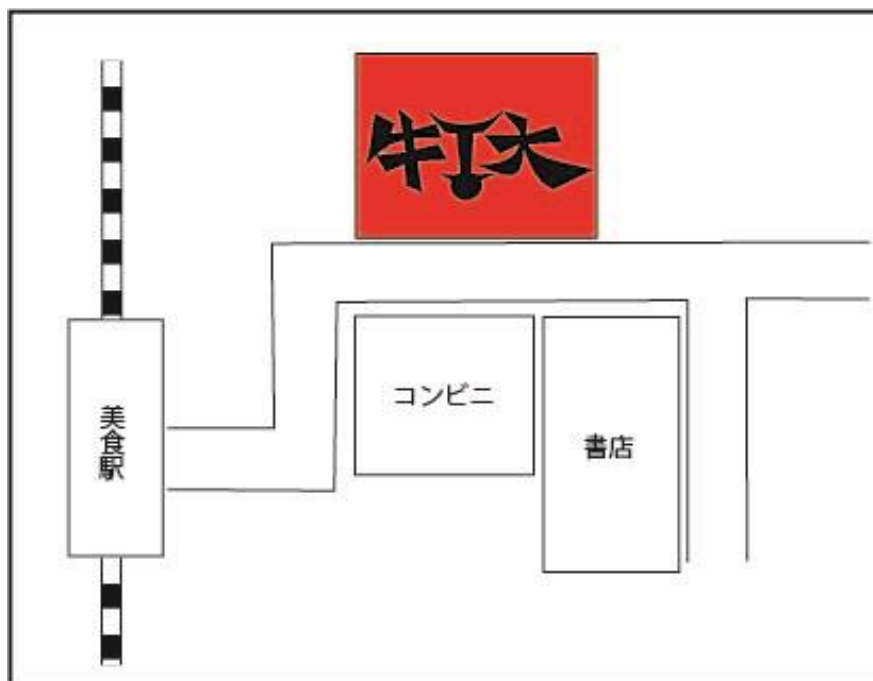


図 23 地図



### 3.3 Web ページ作成

- ・肉の種類、当店について、問い合わせで分ける事により階層的な Web ページとした。
- ・css で統一的なデザインにした。色は焼肉屋らしく暖色をメインに設定した。また行間を日本語に合わせて広く設定した。
- ・メニューを設ける事でページ間の移動を分かりやすくした。
- ・div を用いる事で肉のメニュー等を文章と写真を一つのセットとし、フロートで並列表示ができる様にした。また、それらを wrap 指定する事で、ブラウザの大きさを変更してもレイアウトが崩れない様にした。
- ・wrap において space-between とし、それぞれの項目の間に空間を作る事で、読みやすくした。
- ・画像の大きさを%にする事で、ブラウザの大きさの変更によって画像も変化する様にした。
- ・ページを見た人の食欲を増幅させ店をアピールする為に、トップページに動画を載せた。
- ・各ページのタイトルを「牛工大.〇〇」にする事で、利用者がどのページを見ているかを分かりやすくした。
- ・それぞれの画像に対して、alt 属性を登録する事で、画像が表示されない場合や、音声読み上げにより視覚障害を持つ方にも対処できる様にした。

## 4 まとめ

今回のレポートを通し、HTML、CSS を用いた Web ページ作成技術を学んだ。また、

画像処理や図形作成は改めて行う事で、より技術が身についた。